

1. 実況上の着目点

- ① 停滞前線が千島の東から日本の東を通り、東日本付近にのびている。前線に向かって、太平洋高気圧の縁辺を回る下層暖湿気が流入し、大気の状態が非常に不安定となっており、三陸沖から関東の東では1時間70mm、東日本では1時間50mmの非常に激しい雨を解析し、雷を多数検知している。
- ② サハリンから日本海の500hPa 5640～5820mには-12℃以下の寒気を伴ったトラフがあって東進。
- ③ 小笠原諸島の東海上には熱帯低気圧があって、ゆっくり北上。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の前線は、3日朝にかけて東日本を南下（次第に陸上にかからなくなる）し、その後、4日にかけて関東の東に停滞する。前線や東日本に向かって太平洋高気圧の縁辺を回る下層暖湿気が流入し、東日本では大気の状態が非常に不安定となるため、雷を伴った非常に激しい雨が降り、大雨となる所がある。台風第10号や台風から変わった熱帯低気圧によるこれまでの大雨により、地盤の緩んでいる所があり、少しの雨でも土砂災害の発生するおそれがあることに留意。東日本では4日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒し、落雷や竜巻などの激しい突風に注意。
- ② 日本付近は、5日にかけて日本海に中心を持つ高気圧と千島の東に中心を持つ高気圧に覆われて晴れる所が多くなる。一方、1項②のトラフが、4日にかけて日本付近を通過する。また、日中は日射による気温の上昇や太平洋高気圧の縁辺を回る下層暖湿気が流入するため、大気の状態が非常に不安定となる所がある。西～東日本では5日にかけて、落雷や突風、急な強い雨、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ③ 5日朝には、沿海州から華北にかけて前線が形成されて、サハリン付近まで東進する。前線近傍では、気圧の傾きが大きくなり、強い風が吹いて、波が高くなる所がある。北日本では5日は、強風や高波に注意。
- ④ 1項③の熱帯低気圧は、引き続き北上し5日には不明瞭になる。また、4日までには別の熱帯低気圧が小笠原近海で発生し、小笠原諸島に近づくおそれがある。今後の資料に留意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量子想や降水分布はMSMやLFMも参考。GSM、MSMともに4日にかけて、東海沖に低圧部(主要じょう乱解説図では表現していない)が予想されている。この低圧部について、MSMの予想は過発達と考えられるため、不安定度については割り引いて考える。

- 4. 防災関連事項 [量的予報等]**
- ①雨量(06時からの24時間):伊豆諸島150、関東甲信・東海100mm。
 - ②波浪(明日まで):高い所(3m以上)はない。
 - ③高潮(明日まで):大潮の時期。九州北部地方と小笠原諸島では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。